

外観



国際宿舎のコンセプトである「交流」の場のひとつとして、中庭にはテーブルセットを設置。屋外でくつろぐことが多い傾向にある外国人入居者同士や日本人入居者との交流の場となっている。

1F DINING HALL



ダイニングホールは、エントランスとフロントに直結。また、大規模なキッチンラウンジのほか、シアタールームと隣接しており、入居者同士が交流を図ることができる。

2F 独立型住戸フロア TATAMI ROOM



くつろぎの場として入居者に開放している空間。また、地域住民との交流イベントとして浴衣の着付けをしてパーティーを行ったり、日本らしい宴会を催すなど文化交流を図る場所としても活用していく。

シェア型住戸 リビング・ダイニング・畳コーナー



シェア型住戸は1ブロックに約20人が暮らす。各ブロックの共用部にリビング、ダイニング、キッチン、シャワー、トイレを配置している。

1F DINING HALL横 女性トイレ 洗面コーナー



白を基調としたシンプルな空間に丸形の鏡がアクセントになった洗面コーナー。洗面カウンターには自動水栓を設置。一番奥の1ヶ所はスタイリングコーナーになっている。

1F DINING HALL横 男性トイレ



壁掛小便器の足元には防汚・防臭機能を備えたハイドロセラ・フロアを設置。大便器はタンク式でローシルエットのウォッシュレット一体形便器GGを選定している。

シェア型住戸 ダイニング・キッチン



“食”を通じて交流ができる空間。椅子は数種類採用し各自の体格や好みで選ぶことができる。キッチンは、文化の違いによる香りの好みに配慮してクローズキッチンとした。開放も可能になっている。

シェア型住戸 (10㎡タイプ)



家具と家電付きの住戸。洗面器は円形のベッセル式洗面器と台付シングル混合水栓(エコシングル)を設置している。

1F DINING HALL横 多機能トイレ



コンパクト多機能トイレバック(車いす使用者・オストメイト対応セット)を設置。さまざまな身体状況や性の多様性に配慮して、だれもが日常的に利用できるトイレを用意している。

住戸フロア 共用トイレ



住居フロアの共用トイレの内装には、紺色・ベージュ色・緑色のモザイクタイルを貼り、各トイレごとに違ったイメージを演出している。

建築概要

名称	東京大学目白台インターナショナル・ビレッジ
所在地	東京都文京区目白台3-28-6
施主	国立大学法人 東京大学
設計	国立大学法人 東京大学
施工	株式会社 鴻池組
竣工年月	2019年7月

水まわりの特長

<建物の特徴>
 東京大学目白台インターナショナル・ビレッジは東京大学の学生と研究者のための国際宿舎。コンセプトは「交流」とし、日本人と外国人が互いの生活文化に触れることができる宿舎になっている。敷地内に日本のローカル食材を食べることができるレストランやコンビニエンスストアを併設。また、入居者同士の交流だけでなく、地域住民との交流イベント開催を視野に入れ、設計会議には計画初期段階から民間運営会社が加わった。結果、通常の一人暮らしでは得られない交流と実りある生活ができる宿舎になっている。住戸は共用部に設置した水まわりやリビングを利用する「シェア型」704室と、住戸内に水まわりを用意した「独立型」151室を配置。2タイプとも家具家電付きで、入居したその日から生活が可能。日本製の家具や家電、畳などに触れることで、日本の暮らしの良さを体感できる。

<水まわりの特長>
 共用トイレは、ローシルエットタイプでシンプルなデザインが特徴のウォッシュレット一体形便器GGを選定。独立型住戸のトイレにも、ウォッシュレットを設置し、日本の水まわり文化のひとつでもある温水洗浄機能を体感できる設備を整えている。